

科目名		救急救護教育指導特論		分野・必選別・ 単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員		◎教授 窪田和弘					
課程	修士	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要		救急救護教育・学習の形態は、講義、シミュレーション、救急自動車同乗実習、臨床実習と多様であるが、いずれも知識・技術の習得に偏重している、指導者の現場経験が過大視されている、教材が洗練されていない、教育技法等の教育理論に根ざしておらず教授法がまちまちである、などの問題点が多い。本講義では、このような課題を検証し、教育理論に根ざした救急救護の教育指導法を学修する。さらに、救急救命士の経験に応じた継続教育(クリニカルラダーシステム)についての発展的、実践的な教育法を検討する。					
授業の到達目標		①臨地実習指導に向け、教育理論に基づいて具体的な実習要領(教育計画、教育指導法、評価法)の策定ができる。 ②キャリアに応じた継続教育や指導救命士教育のプログラムを立案し、プログラムのマネージメントを提示できる。					
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	窪田 和弘	教 授	救急救護の教育者に必要な資質、能力、態度について説明ができる。			
	2	窪田 和弘	教 授	救急救護の教育法(1) 教育目標、教授法、授業計画の作成、教育評価法について説明ができる。			
	3	窪田 和弘	教 授	救急救護の教育法(2) 教育目標、教授法、授業計画の作成、教育評価法について説明ができる。			
	4	窪田 和弘	教 授	救急救護の教育法(3) 教育目標、教授法、授業計画の作成、教育評価法について説明ができる。			
	5	窪田 和弘	教 授	継続教育(1) 継続教育の現状を検証し、課題を抽出できる。			
	6	窪田 和弘	教 授	継続教育(2) 抽出した課題について教育改善策を提示できる。			
	7	窪田 和弘	教 授	指導救命士教育(1) 現状を批判的に検証し、課題を抽出できる。			
	8	窪田 和弘	教 授	指導救命士教育(2) 抽出した課題について教育改善策を提示できる。			
	9	窪田 和弘	教 授	シミュレーション教育(1) 教育目的、計画樹立、指導要領、評価法の実情を説明できる。			
	10	窪田 和弘	教 授	シミュレーション教育(2) 教育目的、計画樹立、指導要領、評価法の改善策を説明できる。			
	11	窪田 和弘	教 授	シミュレーション教育(3) 教育目的、計画樹立、指導要領、評価法を実践し課題を説明できる。			
	12	窪田 和弘	教 授	臨床実習教育(1) 教育目的、計画樹立、指導要領、評価法の実情と課題を説明できる。			
	13	窪田 和弘	教 授	臨床教育実習(2) 目的、計画樹立、指導要領、評価法の改善策を説明できる。			
	14	窪田 和弘	教 授	救急車同乗実習教育(1) 教育目的、計画樹立、指導要領、評価法の実情と課題を説明できる。			
15	窪田 和弘	教 授	救急車同乗実習教育(2) 目的、計画樹立、指導要領、評価法の改善策を説明できる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		【事前学修】	所属消防本部の教育体制、教育内容の実態を把握し、課題及び解決の方向性について事前にまとめておくこと。				
		【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、参考書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。				
		【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。				
教科書		特に指定しない。					
参考書		・杉並みどり／舟島なをみ 看護教育学 第6版 医学書院 ・John A.Dent/Ronajd M. Harden 医療教育の理論と実践 第2版 篠原出版新社					
成績評価の方法および基準		授業中の発言・発表・討議50%、演習の課題レポート50%					
その他履修上の注意事項		試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP4が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。					